

郷土を知る

昔々の そお市

むかしむかし

第47回



名馬の産地

生涯学習課 文化財係 ☎ 0986-76-8873

曾

於市は畜産の町と言われ、良質な和牛や豚・鶏の生産地として全国的に知られていますが、かつては馬の生産が盛んな地域でもありました。霧島市福山町牧之原から末吉、

恒吉にかけて福山野牧、大隅町中之内の梶ヶ野から折田にかけて末吉野牧という薩摩藩直営の牧場が設けられていました。特に福山野牧は藩内20カ所の牧場のうち最大のもので外周は約40kmもの広さがあり、数千頭の馬が飼育されていたと言われています。福山野牧と末吉野牧は大隅町坂元あたりで接しており、両牧の堀が並行していた様子から二重堀の地名が残ります。

時代は下りますが、大正時代、財部町に「静葉号」と言う名の馬がおり、優秀な種馬として1400頭の子馬の生産に貢献しました。静葉号を称える石碑が財部小学校西側斜面に残されています。

同様に末吉町川内には「グラント号」があり、種馬として1595頭の子馬を生産し、農家の経済に多大な貢献をしました。こちらも南部公民館そばに名馬グラント号碑が残されています。

また競馬界で活躍した馬もいます。

た。末吉町丸山の「第三アルビオン号」は、種馬として飼育されていましたが、優れた身体能力を買われ、東京・阪神・小倉などの公認競馬に出場、年間18勝をあげるなど競走馬として活躍しました。丸山交差点付近に名馬第三アルビオン号碑が残ります。ちなみに丸山には数年間ですが草競馬場が設置されていた時期もあるそうです。

昭和の中頃から、農業の機械化などにより馬の飼育頭数は激減したと言われています。現在、曾於市内の飼育頭数は住吉神社の流鏝馬で活躍する3頭を含めごく僅かではないでしょうか。

来月はいよいよ財部高校跡地に南九州畜産獣医学拠点（SKLV）が開所します。牛や鶏の産業動物エリアに加え、馬エリアが設けられ乗馬体験なども計画されています。畜産のまちな歴史に新たなページが刻まれることでしょう。

▼名馬静葉号碑



▲名馬グラント号碑

▲名馬第三アルビオン号碑

